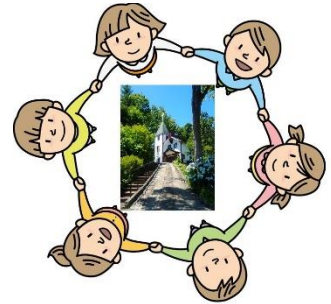


「日本キリスト教団 2030 年問題」(2023. 3. 19)

「目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。
わたしの助けは来る、天地を造られた主のもとから。」(詩編 121:1-2)

先週、第 2 回教会懇談会が開かれた。始めに長老会からの提案があった。まず、新年度の主題聖句は、ヨハネ 20:27 を継続すること、そして、年度目標は「共に苦しみ、共に喜ぶ教会」としたい旨、牧師から説明があった。次に、来年度の伝道について、かまくら FM の教会 CM 「明日は日曜日」を 8 月以降も継続すること、また、ゴスペル賛美(夕)礼拝(8 月)、イブ礼拝(12 月)、かまくら演奏会(2 月)などにも取り組むことなどが示された。教会員からはおおむね肯定的な意見が出された。



次に、教会員各自が日頃考えていることを自由に話し、共有した。詳しくは別紙を参照してほしい。聴きながら思ったことは「日本キリスト教団 2030 年問題」である。これは、2030 年には多くの教会で 75 歳以上の教会員が 3 分の 2 を超えることになり、この年を境にかなりの数の教団の教会が消滅すると言われている危機のことである。現に、横手教会に連なる私たち一人ひとりがプラス 7 になったら、確かにそうかもしれない。「だから伝道を、青年や子どもに伝道を！」ということが盛んに言われる。でも、足腰が弱くなり、自分のことで精一杯の高齢者にどのような伝道ができるだろうか。もちろん信仰の継承、家庭伝道が基本であるが、家族であるだけに難しい側面もある。かといって外に向かってどのように伝道したらいいのだろうか。



教団常議員会は、「教団伝道推進基本方針～共に祈ろう、共に伝えよう、共に献げよう」を決議しました。この基本方針の第一は「祈ること」です。祈りは恐れを取り除き、主に目を向けさせます。それまで見えなかった道を見せてくれます。祈りは高齢者には得意とするところです。上掲の御言葉は、高い山々の前に恐れうろたえる私たちに信仰を呼び覚まします。私たちの助けは、天地の創造主から来る。

この高い山々も造られ、その御手に置かれる主のもとから来る。だから、目を上げて主に祈ろうと教える。逆境の時こそ、主に望みを置き、祈る者になりたい。